

【はじめに】

この資料は、令和2年度ポーターズ・ゼミ（主催：宮崎県選挙管理委員会、明るい選挙宮崎県推進協議会、宮崎大学）の様子を紹介するものです。

第4回ゼミでは、日向市長の十屋幸平氏からお話を伺いました。

令和2年度ポーターズ・ゼミ概要（第4回）

テーマ：「政治家の話を聞いてみよう」

講師：日向市長 十屋 幸平 氏

日時：2020（令和2）年11月14日（土）

場所：宮崎県庁 附属棟3階 301号室

参加者：12名（高校生、大学生、20代の社会人）



1 自己紹介

私は、十屋幸平（とや こうへい）66歳です。「十屋」という名字は珍しく県内に2人しかいません。パソコンで漢字変換すると「土屋」と表示されるのでよく間違われます。父は鹿児島県枕崎市の母は山口県萩市の出身ですが、私は日向市財光寺で生まれ育ち、日向工業高校を卒業後、福岡県の九州共立大学で工学を学びました。

バスケットボールと映画が大好きで、映画は特に、山田洋次監督の「寅さん」（男はつらいよ）シリーズが好きなので繰り返し見ています。寅さんシリーズの第45作「男はつらいよ 寅次郎の青春」は本県の日南市でロケが行われました。主人公の寅さん（車寅次郎）とマドンナ役のリリーが、結婚する直前にまで行くものの結婚には至らないという話です。なぜ二人が結婚しなかったのかが気になり、山田洋次監督にお会いした際に質問したことがありましたが、残念ながら、その理由を教えてくださいませんでした。

座右の銘は、「**初心忘るべからず**」です。例えば、政治家を志すようになったときや企業や役所に就職し働き始めるときなど、何事にもスタートがあります。私は、その何事かをはじめの時の気持ちは大切なものだと考えています。

また、政治信条は2つあります。一つは、「**至信（ししん）**」です。これは、「信じることを貫く」という意味の言葉です。母が生まれた山口県萩市は、幕末の思想家である吉田松陰の出身地として有名です。彼は29歳で亡くなるまでの生涯で、牢獄に入れられ、様々な厳しい場面に陥りますが、自分の信じることを貫き通したと言われています。私の大好きなエピソードの一つです。もう一つは、「**日向で育った子どもたちが、地元に残り、帰りたくなるような『笑顔あふれる元気な日向』の実現**」ですが、これは後ほどお話ししましょう。

市長として、市政の運営で大切にしているのは「**不易流行**」です。不易とは、時代が変化しても変わらないもの、変えてはいけないもののことです。日向市の場合は、「細島港を核としたまちづくり」がこれに当たるでしょう。また、時代の流れに合わせて変えていく部分が「流行」です。まちづくりの分野では、残し伝えるべきものを残しながら、変化を恐れず挑戦することが大切だと考えています。

2 日向市について

日向市は、宮崎県の北部に位置し、隣接する門川町と美郷町、そして耳川上流に位置する諸塚村と椎葉村などと併せて日向入郷圏域を形成しています。日向市は、神武天皇のお船出の地として古くから有名ですが、現在では、お倉ヶ浜海水浴場がサーフィンのメッカ（聖地）としても知られています。市内には、医療機器メーカーのメディキット株式会社の創業者で日向市出身の中島弘明氏がつくった「中島美術館」があります。手頃な入館料で優れた美術品を鑑賞できるお勧めの場所です。

市の歴史を簡単に紹介しましょう。明治22（1889）年に町村制が始まってから、現在の日向市となる地域には、いくつかの村がありました。それらが幾度かの合併を経た後、まず昭和26（1951）年に富島町と岩脇村が合併し「日向市」が誕生しました。その後、日向市は昭和30（1955）年に美々津町と、平成18（2006）年に東郷町とそれぞれ合併し現在の日向市となっています。

この「日向」という名前の由来ですが、これは日本が律令制の時代に、宮崎県の地域一帯を指して用いられていた国名「日向国」にちなんだものです。日向市が、この名前を名乗るようになるには、一つのエピソードがありますのでご紹介しましょう。

日向市の前身となる富島町と岩脇村が合併を進めていた昭和25（1950）年から26（1951）年にかけて、合併後に出来る新しい市の名前をどうするかで地元では議論が紛糾していました。当初は、「富島市」や「富高市」という名称が検討されていたようですが、なかなか意見がまとまりませんでした。そして、「日向市」という名前とすることで地元の意見がなんとかまとまりました。

しかし、今度は、この「日向市」という名称の提案を受けた県議会において、宮崎県の全体を表す旧国名の「日向」を市の名前に用いることに異論が出され、再び議論が紛

糾してしまいます。県議会では、最終的に、市名は暫定的なものという付帯条件つきで可決されたと言われており、現在に至っています。

日向市の人口は令和2(2020)年9月時点で59,537人です。人口の年齢構成を見ると18歳から40代半ばまでの世代が全国と比較しても著しく少ない状況です。高校を卒業した若者は、市外に転出した後に日向に戻ってこない傾向にあります。今から40年後である令和42(2060)年には、人口が40,445人にまで減少すると推計されているのですが、目標としては45,000人以上を維持したいと考えています。

先ほど「不易流行」という話をしましたが、日向市の初代市長である三尾良次郎氏は、議会の施政方針演説で、「日向が本県の表玄関である細島港を控えており、私たちは県のため国のため、日向市を商工業都市として発展させねばならない」と述べています。皆さんは、宮崎県と言うと「農業」県という印象が強いかもしれませんが、日向市の産業別人口を見ると、全国や県全体と比較して製造業に従事する人口の割合が高くなっています。細島港周辺には、たくさんの企業が立地しており、細島臨海工業団地には3,100人が就業しています。細島港は、市の発展に重要な役割を果たしてきました。

3 政治家を志した理由

私が政治家を志したきっかけですが、私は、日向市に帰郷して3年目となる28歳の時に結婚しました。その頃から、地元のスポーツ少年団でバスケットボールの指導をはじめ21年間にわたり続けてきました。

40歳は、男性の厄年（やくどし：災難が身に降りかかることが多いので、気をつけなければならないと古くから言い伝えられている年齢）と言われます。私は、その40歳になるときに、地元の五十猛（いそたけ）神社で厄払いをしました。日向市は「ひょっとこ踊り」で有名です。キツネ、おかめ、ひょっとこ、ほうき（箒）の踊りがあるのですが、五十猛神社では、この踊りを厄払いの一環として、1か月ほど練習を重ねた上で実際に踊ります。私が参加したこの厄払いでは、最後に、神社の宮司の方から、参加者に対し「人生について」をテーマにレポートをまとめ提出するよう指示がありました。

私は、厄払いのための「踊り」に参加しているつもりでしたから、レポート作成が課されるとは思っていなかったのですが、せっかくの機会だと思いましたので、真面目に取り組みました。

そして、レポートを作成するため自分の人生を振り返っていく中で強く感じたのが、長年スポーツ少年団で指導に携わった数多くの子どもたちが、成長後、日向市に残っていないことでした。子どもたちは、大学等への進学や企業への就職で日向市を離れてしまうと地元に戻ってこないのです。そして、子どもたちが戻ってくるようなまちにするには、どうすればよいのかを強く考えるようになったのですが、これが政治家を志すようになったきっかけです。

厄払いが終わったのは11月末でしたが、日向市議会議員の選挙は翌年の4月に迫っていました。私は、選挙があると毎回投票には行っていましたが、それまで政治家になろうと考えたことはなく、政治家の応援に携わったりしたような経験もありませんでした。

バスケットボールの指導は続けてきたものの、地域の団体で何か役職をした経験もなく、市内に家族・親族がいるわけでもありませんでした。そのため、市内で私の名前を知っているのは、仕事や友人の関係者だけといった状況でした。

選挙に出馬すると決めてから、妻の父が、私に地域の様々な関係者を紹介してくれたのですが、会う人からは口々に「あなたは、どこのどなたですか？」と聞かれました。選挙の直前で、そのような状況でしたので、親族には出馬を反対されました。

しかし、妻は私の気持ちを理解してくれていたもので、出馬することに「いいんじゃないの」と言ってくれました。当時、妻にとっても初めての選挙でしたので、その大変さが十分に分からなかった部分もあるのかもしれませんが、出馬を理解してくれた妻には大変感謝しています。

まったくの無名候補でしたが、選挙では6番目の得票をいただき市議会議員に当選することが出来ました。

4 議員として

(1) 日向市議会議員として

市議会議員は、2期務めました。就任当初に取り組んだことには、例えば、市職員の給料の口座振替の導入があります。私が議員になった当時は、市役所では給料日になると、給与の担当職員が銀行から全職員分の給料を引き出し、30人くらいの職員が部屋に集まってお金を数えて、職員一人一人の分の給料を封筒に詰めるというところで行われていました。同様に支給していた自治体で強盗事件が発生するなど安全面でも問題がある方法だったので、議会で口座振替を提案しました。

また、市役所が業務で使用する車についても、それまでは、部署ごとで別々に管理されていたのですが、市役所全体で集中管理し、使用予定がない車ならこの部署の職員でも使用できるよう提案しました。そのほかにも色々な提案をしていますが、当時提案していたことで、最近になってやっと実現したようなこともあります。

(2) 宮崎県議会議員として

その後、県議会議員選挙に出馬し県議会議員を3期務めました。初当選した直後の平成15(2003)年の6月議会では、引退直前だった当時の松形祐堯知事にとっての最後の議会で質問に立つことになりました。

私は、この時の質問で「北は夕暮れ」という言葉を取り上げました。この言葉は、当時、県の全体を見たときに県北地域が県内の他の地域と比べて道路などの整備が遅れているという意味で使われていました。知事に、このような言葉が使われていることについて議会で見解を伺ったのです。

当時、県北地域に対する県の地域振興については、県北の住民と知事をはじめとした県庁の関係者の認識とは違っていました。県北の住民は、「北は夕暮れ」という言葉に象徴されるように、県北は道路などの整備などが他地域と比べて進んでいないと感じていました。これと反対に、県庁の関係者は、県は県北の地域振興に多くの予算を投じているという立場だったのです。

認識にズレが生じていたことには、理由がありました。例えば、道路の整備を例にすると、九州山地の険しく切り立った山々を多く抱える県北は他の地域と比べて道路工事に多額の費用が必要となるのです。工事の難易度も上がり、実際に投じた予算の割には工事が進展しないという事情がありました。

当時、私が引退前の知事に対して、この言葉を取り上げて質問することには、快く思っていなかった方もいたと聞いています。

しかし、松形氏は素晴らしい知事でしたので、私の質問に対して、自分が知事に就任して以来、均衡ある（バランスのとれた）県土の発展を図るという考えで取り組んできたことや、知事に就任した当初、県の北と南とで交通事情の格差が酷いと感じ県北に集中投資を行ってきたことを率直に答弁いただきました。

(3) 県議会副議長として

その松形知事の引退後、平成 18（2006）年に県庁で官製談合事件が起こり当時の知事が任期中に逮捕され辞職する事態が生じました。その混乱の中「どげんかせんといかん」（「どうにかしなければならぬ」の意味）というキャッチフレーズを掲げ県政改革を訴えた東国原英夫氏が知事選挙で当選しました。県民の関心が大変高まり、当時の投票率は 64.85%と昭和 54（1979）年以来、最高の投票率となりました。

そして、県議会議員も 2 期目に入った平成 22（2010）年に、県議会の農政水産常任委員会で委員長を経験しました。その時に県内で発生したのが、牛や豚の家畜伝染病である「口蹄疫」です。口蹄疫という危機に常任委員会の委員長という立場で向きあう中で、口蹄疫や地震のような災害が発生した際に備え議会の権限を強化するために議会基本条例が必要だと考えました。

このような条例を議員提案で作っていくためには、より多くの議員の皆さんに納得してもらえるような立場となって推進していくことが必要だと考え平成 23（2011）年に県議会の副議長に手を挙げました。そして、副議長在職中に議会基本条例の検討を進めることができ、翌年に議員提案で条例が成立しました。

5 市長として

その後、平成 28（2016）年に日向市長選挙に立候補しました。出馬することとしたのは、歴代市長が工業都市として発展させてきた日向市に対して、これまでの経験を生かし恩返しするとともに、笑顔で暮らせる日向をつくりたいという思いからです。

市長 1 期目は、熊本地震などをはじめとした災害が多く発生しました。市に住む人々が安全・安心な暮らせるまちをつくるのは市長の仕事ですので、南海トラフ地震に備え避難タワーの整備を進めました。また、世界ジュニアサーフィン選手権の開催など様々な事業に取り組みました。

就任から 4 年目を迎えた今年の 3 月には、2 期目の選挙に出馬しました。選挙は、ちょうど新型コロナウイルス感染症が国内で徐々に拡大する中で行われることになりました。選挙運動の期間中の選挙運動用自動車による氏名の連呼は、朝 8 時から夜 8 時まで認められています。

しかし、今回の選挙では、感染症対策も踏まえ、朝の出発時間を遅らせ、午後5時になったら選挙事務所に戻ることにしました。選挙運動期間中には、高千穂町で感染者が発生し、現職の市長として市の対策本部における対応などに追われました。後援会の関係者とも話し合い、最初の2日間は選挙運動用自動車での連呼も止めて、感染症対策に専念したのですが、市長選挙は期間が短いので残りは運動を再開させました。

通常選挙であれば、有権者に集まってもらい演説をしたり、街頭で握手したりするのですが、今回は、そのような手法は使えませんでした。新型コロナウイルス感染症によって、これから選挙運動のやり方も大きく変わるのではないかと考えます。

選挙で当選し、今年度は2期目の任期に入りましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり当初計画していた事業に取り組むのが難しい状況にあります。

そのような中でも、例えば、トーゴ共和国との相互協力協定締結や独立・建国60周年を祝う記念植樹など新しい事業にも取り組んでいます

6 政治家と家族の支援～政治分野における男女共同参画も見据えて～

選挙で当選し政治家になると、有権者の皆さんから様々な意見をいただくようになります。そして、私に対していただく批判的な意見が、時に、私の妻にまで向けられてしまう場合があります。市議会議員に当選した頃から、妻には苦勞を掛けてきましたが、私が政治家として二十数年やってこられたのは、家族の支援があったからであり、妻を大切に思っています。

さて、今日の会場には、女性の受講生もたくさんおられます。日本では、残念ながら、女性が政治家を目指すには、まだまだ難しい部分があると言われていています。女性議員の割合は、令和2（2020）年6月時点で下院（一院制議会を含む）の世界平均は25.0%ですが、日本の衆議院は9.9%です。日向市議会（定数20名）には1名、県議会議員（定数39名）には4名の女性議員がおられます。

私は、今後、女性の政治家が増えていくことは、政治における意見が多様化するという意味から大切なことだと考えています。そして、先程、私は妻の理解があったから政治家になることができたと話しましたが、女性、特に、結婚している女性が政治家となる上では、私とは逆に夫の理解がないと難しい状況が生まれてくるでしょう。

女性は男性と比べて、出産などの面で政治家を目指す上でのハードルが高くなる部分があると思いますが、ぜひ多くの女性が政治家となって、国や地域を動かして欲しいと思っています。



(質疑応答)

受講生 A : 市長が掲げられた公約の中には、高等学校への専攻科の設置もあったようですが、なぜなのでしょう。

十屋市長 : 地元で育った若者には、地元に残って欲しいという気持ちがあります。日向市は工業都市で、工業関連の様々な企業が集まっています。昔は、高校を卒業して就職した若者について、企業がしっかりと一人前に育てていくということが行われてきましたが、現在の企業というのは、より即戦力となる人材を求める傾向があります。

そこで、日向市や延岡市には工業高校がありますので、その卒業生が、更にもうワンステップ勉強することで企業にとっての即戦力となれるような場を作りたいという思いがあります。人口減少社会の中で、高等学校も今後、更に再編が進んでいくとの議論がありますが、もし、そうなのであれば、延岡市や日向市に1クラスでもよいので専攻科を設置し、高校と短大の間くらいに位置づけられるような学びの環境をつくることで、地元での就職に結びつけるという取り組みができればよいと考えているところです。

もちろん、小・中学校は市町村立ですが、県内の公立高校は県立ですので、県の担当部署には色々とお話をして、こちらの思うように進んでいかない部分はありますが、このような取組みを進めていくことは大切だと考えています。

受講者 B : 人口減少対策として、日向市では移住の推進に力を入れておられると聞きました。国では、その地域に住む「定住人口」を増やすだけでなく、その地域との関わりをもつ「関係人口」を増やすという考え方も提唱されていると聞いています。日向市での取組を教えてください。

十屋市長： 人口が減少すると、税収が減り、街から元気がなくなり、山林を管理する人などもいなくなって荒れてしまうなど、どうしても街が衰退してしまいます。

日向市では、定住人口対策として「サーフトownプロジェクト」としてサーフィンに関心のある方のIターンの推進や、企業誘致によって働く場の確保などを進めています。サーフィンに興味がないような人でも、日向市の人や自然に惹かれ移住をして下さる方もいます。

このような定住人口の確保の取組は重要ですが、移住の推進によって爆発的に人口を増やすのが難しいというのも事実だと思います。

また、「関係人口」についてですが、関係人口の考え方が提唱される以前は、その地域を訪れる「交流人口」を増やすことが重要だと言われていました。この2つを整理すれば、観光などで訪れる一過性の「交流人口」と、更に進んで日向市に関心を持ち、日向市を応援してくれるのが「関係人口」と言えるでしょう。

現在、観光地やリゾート地などでテレワークなどを活用し働きながら休暇も取る「ワーケーション」も提唱されていますが、日向市では先日、実証実験を行いました。

このように日向市に関わりを持って下さった方を、最終的には移住などを通じて「定住人口」へとつなげていきたいところです。

【この資料について】

この資料では、講師や受講生の発言を読みやすくなるよう適宜加工しています。

また、この資料を、主権者教育・選挙啓発の目的以外で使用することは、ご遠慮ください。